

DAY3 & EVERYDAY

ツーリング in JAPAN

ツーリング区間2250km 実走トータル2400km!
ココを制覇する者がクルマ付き合いの達人!!
たんたん走るだけじゃない
各ポイントには、ストップウォッチ片手に
オフィシャル隊がバックリ口開けて待つ
厳しくも楽し〜いステージなのだ!

最速競技長Dai

各ポイントからの出走前、チューナーには入浴に「ここはラリー区間だからネ、飛ばしても意味ナシよ」と釘を刺す。でも、Daiがいつも区間賞!



ルート

谷田部→仙台

消費燃料

1	ブリッツ	35Q	燃費10でこの区間1等賞
2	Dai	38Q	素直くても燃費はいい
3	HKS 関西	40.5Q	ランエボで燃費8はエライ
4	ガレージ福井	42Q	トラブル抱えけっころ飛ばす
5	エスプリ	42.5Q	ルート間違え407km走行
6	レイズ	43Q	スーブラで燃費8.6、どうだ!
7	雷オフィス	43Q	レイズと同様の6位
8	マイナス	44Q	GT-Rではこんなもん
9	トライアル	48Q	確かに速いが燃費は最下位

※約370kmの道のりを5時間内で、全車受付規定時間内に到着。ブリッツは燃費ダントツで区間優勝。IC見逃しでルート間違いのエスプリ、トライアルはマイナス・ポイント。

OPTION整備のSSR ('94全国オービス大全科&ハイウェイオービスマップ)が各チューナーに配られ、大活躍/制限速度守っていれば必要なし……だよネ。

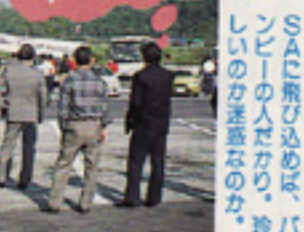


へーキじゃ
ネーよな
こんだけ有れば



アチャ〜

キャノン・ボールに
中山律子いるの!?



SAに飛び込めば、パ
ンヒューの力だから、珍
しいの力を感じるのか。



DAY3、ワン・ラップ・オブ・ジャパン3日目はステージ競技はなく、エビスからTへ向けての丸一日ツーリングだ。が、もちろんコイツもマシン(とドライバー)にとっては、そのポテンシャルが見え隠れする重要なステージには違いない。で、ここでは全行程2400km走破のドキュメントといこう。

ひと口に2400kmと言っても、ただ走るだけの単純なものじゃない。ラリー区間、つまり決められたルートを、規定内の時間に到着しなければならぬ。燃費の良さはプラス・ポイント。マシンも人間も休息したい時に、ラリーをやらずとてころが、ワン・ラップ・オブ・ジャパン。フルステージでの勝者を争う競技の一貫だ。意地悪と言えはそれまで、が、そーじゃない。笑い、感動、

友情が入り交じり、クルマの付き合い方が見える、人間臭い魅力のスペシャルステージなのだ。



温泉に……。こんなハズじゃなかったのに、鼻の下、2400kmの彼方に。



SAに飛び込めば、パ
ンヒューの力だから、珍
しいの力を感じるのか。